

令和3年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和3年10月1日

国際交流推進センター長 殿

下記のとおり報告します。

1. 国際研究集会名	With/After COVID-19 の看護学教育における Well-being を目指したメンタルヘルス対策 ～国際交流および多職種連携に向けて～		
2. 事業責任者 (申請者)	藤野成美	3. 所属・職名	医学部看護学科・教授
4. 開催期間	令和3年9月21日 ～ 令和3年9月21日		
5. 参加者数 ※参加者名簿(様式任意)を添付	参加者数 <u>26</u> 名 うち、 <u>外国人</u> 数 <u>2</u> 名、 <u>学生</u> 数 <u>12</u> 名 (修士課程以上)		
6. 支援金額	金額 <u>170,000</u> 円		
7. 招待講師	所属 <u>ロンドン医療センター</u> 職名 <u>医師</u> 氏名 <u>有馬 由里子</u> 所属 <u>Western General Hospital</u> 職名 <u>Head nurse</u> 氏名 <u>May Garrity</u> 所属 <u>Western General Hospital</u> 職名 <u>Nurse</u> 氏名 <u>Sarah Coleston</u>		
8. 謝金支出額	金額 <u>170,000</u> 円		
9. 国際研究集会の内容	<p>With/After COVID-19 の対策の中で、公衆衛生看護の役割である予防・健康づくりへの意識はより高まっている。コロナ禍の不安やストレスで、メンタルヘルスの問題が増えており、メンタルヘルスケアの活性化や医療・保健・福祉分野との連携強化が必要不可欠である。このような状況のなか、多職種とコミュニケーションを図りベストなケアを提供するための看護師のコーディネーター的役割が重要視されている。本セミナーの第一部では、With/After COVID-19 を見据えた英国の看護学教育の現状と今後の方策、Well-being を目指したメンタルヘルス対策と多職種連携の現状についての講演を行なった。第二部では、どのような方向性を目指すのか、また具体的にどのようなことに取り組むべきかについてパネルディスカッションを行なった。なお、本セミナーは Zoom を用いた Web セミナーで開催した。また、予定していた招待講師が業務多忙により参加が難しくなったため、当初予定の講師から変更となった。</p>		
10. 特記すべき成果・波及効果	<p>第一部では、スコットランドの Western General Hospital で勤務されている看護師長 May Garrity 氏と新人看護師 Sarah Coleston 氏とロンドン医療センターで勤務する有馬由里子医師に、コロナ禍における英国の医療政策の実態、看護教育の現状と看護師のメンタルヘルス対策についての講演により、各国における COVID-19 に対する対策の相違を理解することができ、参加者からは多くの学びがあったとの意見をいただいた。また、第二部のパネルディスカッションでは、近隣の看護学科を有する5大学の教員にパネラーとなっただき、コロナ禍における各大学の対応と学生の現状を知ることができ、多くの情報共有ができるとともに、今後の課題に対する方策についてディスカッションすることができた。</p>		

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。